

令和7年10月28日（火曜日）

埼玉県川越市



市章

1. 市の概要

○市役所の所在地

埼玉県川越市元町1丁目3番地1

○総面積：109.13km²

○人口：352,673人（令和7年4月1日現在）

○世帯数：170,294世帯（令和7年4月1日現在）

○令和7年度一般会計当初予算：1,369億7,000万円

【地勢】

川越市は北緯35° 55′ 30″、東経139° 29′ 08″ 埼玉県の中央部よりやや南寄り、武蔵野台地の東北端に位置している。土地は概ね平坦で、北東部は水田、南西部は畑地帯に2分されている。気候はほぼ温和で、雪害などにはほとんど無縁な土地である。

【川越市のあらまし】

大正11（1922）年に埼玉県内で初めて市制を施行し、昭和30（1955）年に隣接する9つの村を合併し現在の市域となる。

平成15（2003）年には埼玉県内で初めて中核市に移行。令和4（2022）年12月に市制施行100周年を迎えた。

都心からは30分とアクセスが良く、人口は約35万人。

埼玉県内ではさいたま市、川口市に次いで3番目に人口の多い自治体となっている。

江戸時代に太田道真・道灌父子が現在の初雁公園周辺に川越城を築いたことで城下町として栄え、現在もかつての街並みを残す「小江戸 川越」として有名であり、川越市の発表によれば、昨年令和6（2024）年には735万人もの観光客が訪れたとされている。

2. 視察内容

【視察テーマ】

ふるさと納税に関する取り組みについて

【川越市のふるさと納税について】

コロナ感染症の影響を受け減少した観光客を取り戻したいと、同市は令和2年にふるさと納税の大幅なリニューアルを実施した。

令和2年には返礼品を27品目から200品目に、翌年には500品目まで拡大した。

そうした動きは、同市独自のふるさと納税についての「3か年計画方式」に基づいている。

計画は、はじめに「返礼品の拡充」、次いで「ポータルサイトの拡充」や「体験型返礼品のニーズ調査」、その上で「市の魅力発信」や「現地決済型ふるさと納税の導入」といった



流れとなっており、この計画の最終段階である「現地決済型ふるさと納税の導入」として、令和5年9月に、「小江戸かわごえe旅ギフト」と題し、旅先納税を関東で初めて実施したことは特筆すべきである。

また、単に返礼品を単独で宣伝するのではなく、「旅」の広報に組み込んで、街で利用できる「体験型返礼品」をPRし、観光客増につなげる手法は注目すべきである。

【所感】

ふるさと納税制度の活用については、地場産品を返礼品に採用することで地域産業の振興を図る自治体は多くあるものの、直接、自治体への来訪につなげる返礼品によって、返礼品の金額以上の経済効果を生み出す工夫は素晴らしいと感じた。

さらに、施策目標をクラウドファンディング型ふるさと納税によって果たしたり、同制度の活用方法を広報することにより、企業誘致といった大きなビジョンを描き、模索していることには驚いた。

当区の状況を振り返ると、同制度活用に関する議論がなされてきたものの、取り組みは硬直化していた。

今年10月より返礼品が拡充したものの、利用制度が同じにも関わらず、川越市がここまですばる方法で同制度を活用しているということや、STPDによる施策マネジメント手法は、当区において見習うべきことと感じた。

